

磐田を 知りたい！ 調べたい！（小・中学生向け）

てん りゅう がわ 天 竜 川

1. 天竜川について

①天竜川の長さとおよび

天竜川は、長野県の諏訪湖から愛知県・静岡県を通して太平洋に流れる長さ213キロメートル、日本で9番目に長い川です。また、流域面積（川の流れる地域の面積）は5,090平方キロメートルで、日本で12番目の広さです。

②天竜川につくられたダム

天竜川には、高さ15メートル以上の発電ダムが15基あります。この他に砂防ダムなどがあります。

静岡県にある主なダム			長野県にある主なダム		
完成した年	西暦	ダムの名前	完成した年	西暦	ダムの名前
昭和31年	1956年	さくま佐久間ダム	昭和10年	1935年	やすおか泰阜ダム
昭和33年	1958年	あきは秋葉ダム	昭和27年	1952年	ひらおか平岡ダム
昭和52年	1977年	ふなぎら船明ダム	昭和34年	1959年	みわ美和ダム
			昭和44年	1969年	こしづ小渋ダム

③改修によって変化する天竜川 川の下流の地形に注目して調べてみましょう



【大正8年の天竜川】



【昭和26年の天竜川】



【昭和39年の天竜川】



【平成8年の天竜川】

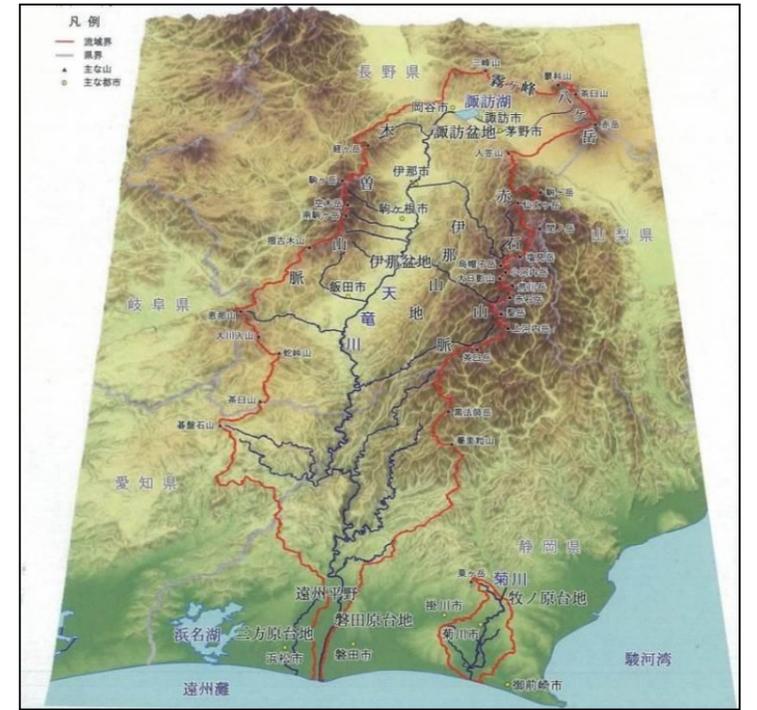
『改修70周年記念 天竜川 写真が語る昔と今』8ページ、9ページより

2. 天竜川周辺の地形・地図

天竜川の下流は、左岸（東側）は磐田市、右岸（西側）は浜松市に接し、南側に遠州灘と呼ばれる海が広がっています。そして、中流域には、赤石山脈に続いていく山々があります。

●くわしく調べる本

- ・『磐田の自然』（全館）
- ・『わくわくしずおか地図えほん』（中央・福田・竜洋・豊田）



天竜川流域の地形

『天竜川・菊川 川の流れと歴史のあゆみ』（国土交通省）より

3. 天竜川の水の利用

むかしの天竜川では、いかだや帆掛船で、中流部から木材や鉱石などの荷物を運んでいました。今ではダムがつくられ、水力発電や、農業・工業用水、飲み水として利用されています。

現在、天竜川下流には、浜名・磐田・寺谷・三方原・天竜川下流などの用水があります。

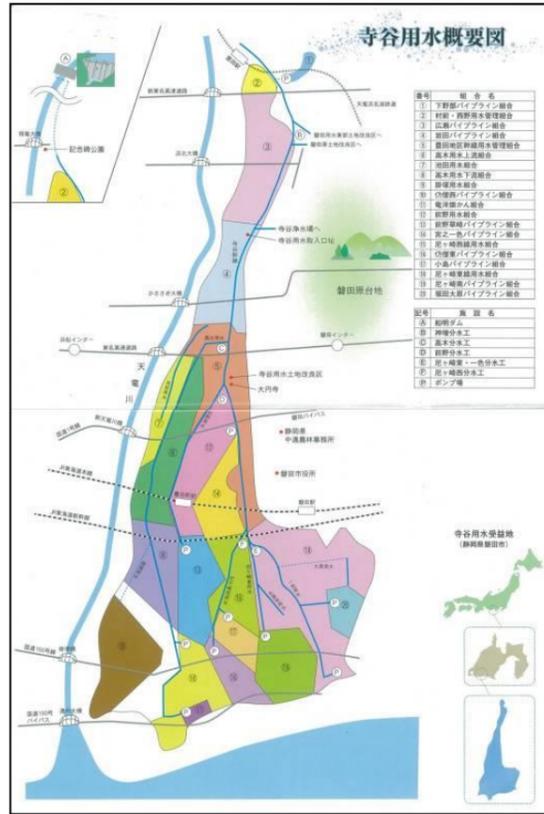
むかしから大きな水害が何度も起こった天竜川では、治水事業が行なわれ、江戸時代に平野重定や犬塚祐一郎、明治時代に金原明善らが取り組みました。

●くわしく調べる本

- ・『改修70周年記念 天竜川』（全館）
- ・「いわたふるさと散歩 磐田文化財マップ」（全館）
- ・『わたしたちの天竜川』（全館）
- ・『新寺谷用水誌』（全館）
- ・『天竜川とともに』（全館）
- ・『天竜川みず物語』（豊田）
- ・『空から見た天竜川』（中央・竜洋・豊田）
- ・『講座「天竜川」記録』（豊田）
- ・『天竜川 治水と利水』（全館）
- ・『定本 天竜川』（全館）
- ・『水と人 磐田用水土地改良区連合誌』（全館）
- ・『天竜川下流水利誌』（中央・福田・豊田）



佐久間町にあった久根鉱山の鉱石船（年代不明・現在の浜松市東区中野町にて）『定本 天竜川』より



てらだにようすい
『寺谷用水』（寺谷用水土地改良区）より



天竜川流域の発電ダム

『天竜川・菊川 川の流れと歴史のあゆみ』より

4. 生き物

天竜川には、魚だけではなく、昆虫や小さな動物たちもすんでいます。天竜川は、山間部の上流から平野部の河口まで長く、場所によってすんでいる生き物はちがいます。また水のきれいなところと汚いところでも、ちがう生き物がすんでいます。

●くわしく調べる本

- ・『天竜川 魚』 相場啓誉／著 （中央・福田・竜洋）
- ・『竜洋町の鳥たち』 竜洋町教育委員会 （中央・豊田・竜洋・福田）
- ・『竜洋地域の自然 竜洋町史通史編別編 自然編』（全館）
- ・『豊田町誌 資料集 5 自然編』（全館）

インターネットで調べてみよう！ ●浜松河川国道事務所ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/hamamatsu/>

国土交通省では、天竜川についてのさまざまな調査を行なっています。浜松河川国道事務所のホームページには、「総合学習 川で学ぶ道で学ぶ」というサイトがあり、小・中学生にわかりやすい資料を提供しています。以下は、その内容です。

○総合学習ミニガイド（自分で印刷して、本のかたちにすることもできます）

- 「天竜川・菊川総合学習ミニガイド 水生生物編」（平成 16 年）
- 「天竜川・遠州海岸総合学習ミニガイド 石と砂編」（平成 17 年）
- 「天竜川水辺の楽校いわた 自然観察ガイドブック」（平成 17 年）
- 「天竜川の魚たち」（平成 18 年）「天竜川の植物」（平成 19 年以降・年代不明）

○「水生生物調査」（平成 19 年）

○「天竜川・菊川の生物」（平成 16 年から 20 年）

- 調査内容「天竜川にすむ陸上昆虫」
- 「天竜川にすむ魚たち」
- 「天竜川に生息している植物」
- 「天竜川に飛来する鳥類」
- 「天竜川にすむ両生類、は虫類、ほ乳類」



コアジサシ

5. 天竜川の歴史と文化

○むかしの本に書かれた天竜川 天竜川の名前は、どのように変わってきたのでしょうか？

	本の題名	内容	当時の天竜川の名前
奈良時代	『続日本記』	和銅8 (715) 年、大地震により「 <u>匏玉河</u> 」が土砂のためにせき止められた後、それが決壊して敷智、長下、石田（磐田）の三郡が大洪水になった」	あらたまがわ <u>匏玉河</u>
平安時代	『文徳天皇実録』	仁寿3 (853) 年、「 <u>広瀬川</u> に、渡し船二艘を置いていたが、川幅が広く急流で旅人を待たせるので、さらに二艘の追加が認められた」	ひろせがわ <u>広瀬川</u>
	『更級日記』	寛仁4 (1020) 年、作者が帰国途中『 <u>天ちう</u> 』という川の近くの仮屋に泊まった」	てんちゆう <u>天ちう</u>
	『源平盛衰記』	治承4 (1180) 年、『富士川』と『 <u>天中</u> 』や『大井川』などという大河を渡る」	てんちゆう <u>天中</u>
室町時代	『太平記』	建武2 (1335) 年、「新田義貞の軍が、 <u>天竜川</u> の東岸の宿に陣をとる」	<u>天竜川</u> 天竜川の名が、はじめて本に書かれる

そのほか、「渡し」（天竜川に橋がかかる以前に、船で人やものを対岸に運んでいたこと）についてなど、むかしの天竜川のことや、天竜川の伝説、また流域で行なわれている行事などについて書かれた本がいろいろあります。

●くわしく調べる本

- ・『磐田昔がたり』（全館） ・『わたしたちの天竜川』（全館）
- ・『豊田町誌 別編 2 民俗文化史』（全館）
- ・『天竜川流域の暮らしと文化』 下巻（全館）
- ・『豊岡村百話』 136 ページ 天竜川の渡船（全館）
- ・『ふるさと豊田 改訂版』（中央・豊田・竜洋・福田）
- ・『豊岡物語増刊号』 104 ページ 天竜の筏と船について（中央・竜洋・豊岡）



加茂大念仏（市指定文化財）